



令和4年11月22日

南陽市議会議長 船山利美 殿

会派 保友クラブ
会長 島津 善衛門

令和4年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和4年11月14日(月)から17日(木)まで 3泊4日
調査場所	沖縄県与那国町、名護市、糸満市議会
調査目的	①陸上自衛隊 与那国駐屯地「沿岸監視隊」の状況 ②「辺野古新基地」工事の進捗 ③幼小中学生の平和の学習と平和行政の取り組み
調査概要	① 陸上自衛隊 与那国駐屯地「沿岸監視隊」の状況 日本最西端の与那国島（沖縄県与那国町）は、人口約1700人の一見のどかな国境離島です。台湾から111kmの島は今、中国の軍事的な台頭で緊張が高まっており、国境の守りの最前線となっていました。 沿岸監視部隊を主体としているが、今後、駐留陸上自衛隊駐屯地（約160人）に最新の電子戦システムを備えた電子戦部隊など約90人を追加配備し、隊員数はこれまでの1.6倍となる。また、航空自衛隊機の緊急発進（スクランブル）体制を強化するため、現在交代で配備されている空自の移動警戒隊員約20人を22年度末までに常駐化させ、空の監視体制を強化するとしている。 駐屯地の建物は大自然を抱く与那国島の景観に配慮して、屋根瓦を赤茶色、壁を白色の外装としており、島の貴重な動植物を保護するため、敷地内にビオトープ（生息・生育空間）が設けられていた。 町は台湾有事も念頭に、国民保護法に基づく避難想定例を策定済みだが、対象範囲は島内のみで、地区ごとに学校などに集めた町民を、空港や港にバスなどで運ぶ想定。

その先の島外への避難は、主に国が責任を持つが、町には明確な回答が無く、国や県の動きが鈍いと感じた。

② 「辺野古新基地」工事の進捗

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の代替施設として、沖縄防衛局が沖縄県名護市辺野古に建設を進める新基地は、総面積 205ha に、1800m の V 字形滑走路 2 本を備えた巨大基地となる。総面積のうち 160 ha は海を埋め立てる。

埋立区域は、辺野古側と大浦湾側に分かれているが、埋め立て中の面積は辺野古側で全体の約 27% となっている。

反対派は集会の開催や船を出しての反対活動を継続させていた。県民と国民の安全安心、心の痛む問題と痛感した。

③ 幼小中学生の平和の学習と平和行政の取り組み

糸満市議会を訪問し、企画部政策推進課より「平和推進事業」の取り組みについて研修。

沖縄県は、太平洋戦争の地上戦において、20 万人余の尊い命が失われ、糸満市においても、沖縄戦最後の激戦地となり多くの住民が戦禍の犠牲となった。

戦争の悲惨さや平和の尊さを認識する中で「ひかりとみどりといのりのまち」を基本理念に掲げ、平和を希求することを目的に、平成 5 年に「平和都市宣言」を行い、毎年 6 月 17 日から 23 日までを「平和週間」と定め「糸満市平和祈年祭」を開催し、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さについて、絶えず発信しているとの事。

また、平和の語り部育成事業、戦争遺構の保全活用、戦争遺構の情報提供、平和の発信・慰霊祭への取り組みなどの説明を受けた。

戦後生まれの世代が多くなっている今日、戦争の悲惨さをどのように未来へ継承していくかが大きな課題であり、私たち一人ひとりが、歴史の教訓として平和の大切さを伝えていかなければならないと強く感じた。

その他